

主要科目の概要【教養学科／学科科目】

■基本科目

●印は必修科目（数字は単位数）。

○印は選択科目（数字は単位数）。

●人類と文化 ②

異文化を鏡にして自文化を見つめる

異文化を理解しようとする時、自分の常識を問い直して試みることからスタートするのが「文化人類学」です。文化人類学の基本的なものの見方・考え方を学びながら、文化の多様性と普遍性について考え、世界や人間に関して新しい視野を切りひらくことをめざします。

●宗教と人間 ②

人々の営みにおける宗教の役割について考える

宗教は人類のさまざまな営みの中で重要な役割を果たしてきました。現在も人びとの生活に大きな影響を及ぼしています。本講義では、宗教に関する基礎的知識を習得した上で、宗教が世界各地の人びとのさまざまな生活習慣、文化活動に与えている影響について学びます。

●ことばと文化 ②

日本語を知る、文化を知る

身近な日本文化・日本的なものを再発見し、それらを創出した土壌を探ります。他国文化（空間的距離）や昔話・伝統芸能（時間的距離）を素材として、自国と他国の文化の共通性や差異性を考えます。それらを知ることは、自己を振り返ることにつながります。

●人間行動と社会 ②

行動が他者の存在や社会とどう関連しているのかを知る

私たちは、人と人之間、すなわち「社会」の中で生きています。その結果、私たちの考えや振る舞いは、周囲の人々や社会の仕組みのあり方から大きく影響を受けています。そうした社会と人間行動との相互作用や影響過程に関する社会心理学の研究を解説します。

●倫理と社会 ②

苦しみと悲しみの源を探求することで幸せとは何かを考える

幸福の達成は、人間の最高の道徳的目的であるといわれています。どのような思考を経て、どのような振る舞い方をしたら、自分も他者も悲しみや苦しみを克服し幸福を達成できるのかを、古典の思索を踏まえ、現代社会の個々の事例を通して考えます。

●公共の思想 ②

さまざまな観点から公共性を問い直す

「わたくし（私） / プライベート」に対する、「おおやけ（公） / パブリック」の言葉の意味をとらえ、経済や法律において公私がどのように扱われ、生活の中で公共性がどう関わっているかを学びます。また、NPO や自治体の役割を公共性という観点から考えていきます。

■主題科目〈人間と文化〉

●日本の歴史 ②

鎌倉幕府を見直す

歴史は政治史を中心に描かれることが多く、常に権勢者が主役となっていますが、この見解は正しいのでしょうか。鎌倉時代後期の政治も、北条氏による専制的政治が行われていたというのが常識的理解ですが、史料を見直し、新たな見方を考察していきます。

●アジアの歴史 ②

「ヨコ」のつながりを重視してアジアの歴史を見る

毎回、異なる時代・世紀を取り上げ、世界史の特徴をとらえます。アジアで興亡した主要な王朝・国家・政権の共通点・相違点、民族移動や東西・南北の交流、特定の人間集団の動向にも注目。近代を迎えるまでのアジア史の大きな流れをつかむことが目的です。

●ヨーロッパの歴史 ②

ヨーロッパの歴史を通して、社会、文化、人間について考える

ヨーロッパの歴史を学ぶことを通して、より広い視野(=教養)を得ることを目的とします。古代ギリシア・古代ローマからの各時代の特徴、重要な出来事や人物についての知識を得ること、それらを通して人間の本質を探るとともに現代社会の特徴を考えていきます。

●日本の文化 ②

日本文化の特質を考える

日本文化の特徴を表す用語として、しばしばとり上げられる「ワビ・サビ」や「もののあはれ」があります。このようなテクニカルタームは、日本文化の特質を正しく示しているのか、歴史的背景に留意しつつ日本文化の諸側面を再検討していきます。

●アジアの文化 ②

多様に展開したアジア文化の形成過程をたどる

衣食住等の観点から、アジア各地の文化を眺め、その多様性について学んでいきます。一方、アジア各地域の文化は隣接する地域の文化とまったく無関係に成立しているわけではありません。この点について、仏像の誕生と伝播を手掛かりに学んでいきます。

●ヨーロッパの文化 ②

ヨーロッパの中のイギリス文化について考える

ヨーロッパの中でも、特にイギリスに焦点をあて、王室を頂点とした複雑な階級社会、社会制度や教育について概観します。飲食や服飾の文化、階級と教育といったテーマを通じて、ヨーロッパの中のイギリス的なものの見方について文化的理解を深めていきます。

●アメリカの文化 ②

アメリカの歴史を遡り、アメリカが生んだシステムと価値観を知る

本講義では文化を娯楽に限定せず、国家・社会・経済の中のイメージ・シンボル・価値観と捉え、アメリカの歴史を遡り、それらがどのように誕生し、変化し、また世界にどのような影響を及ぼしていったのか考察していきます。

●神話の思想 ②

神話に潜む哲学的思考を探る

ギリシア神話・聖書の神話・日本神話・インド神話・北欧神話など、さまざまな神話に関する基礎的知識を習得し、神話を「人類最古の哲学的思考」とみなす考え方について学びます。さらに、その考え方にもとづいて「シンデレラ物語」を解釈していきます。

●人間の心理 ②

人が自分や他者を認知・理解する際の心の働きについて学ぶ

人が自分や他者、そして社会を認知・理解する際に働く心理過程について、日常生活で経験する事例や科学的根拠を示しながら解説していきます。自分や他者の心を客観的に見る感性を養い、豊かな社会生活を営むヒントを得ることを期待しています。

●古典の文学 ②

「今は昔」の世界観

主に平安時代の文学を取り上げます。古典作品は単独で成立しているようにみられますが、実は思想や先行作品を教養として知っていることが前提なのです。それらがつながり「新たな意味」を生み出すこと、それを可能とする古代人の発想力に触れていきます。

●現代の文学 ②

3.11 後に文学は可能か

3.11 大震災は、私たちの世界観を大きく揺るがしました。サルトルの有名なテーゼに「飢えた子どもの前で文学は可能か」というのがありますが、3.11 大震災ではその問題に直面したはずで、3.11 後に文学は可能か。皆さんと一緒に考えていきます。

●映像と文化 ②

成瀬巳喜男を通して日本と日本人の戦後を考える

松竹で「小津は二人いない」といわれた成瀬巳喜男。やがて PCL(東宝)に移り、大輪の花を咲かせますが、先輩監督・小津安二郎を常に意識せざるを得ませんでした。成瀬映画を読み解きながら、小津安二郎の影を抽出し、日本と日本人の戦後について考察します。

●芸術と文化 ②

一枚の絵画から読み取れること

近代以降の社会において、芸術と文化がどのように関係しながら発展してきたのかを概観します。現在、芸術作品は鑑賞される対象を超えて、生活の中に組み込まれています。その経緯を確認しながら、芸術と文化を身近なものに引きつけて発見していきます。

■主題科目〈現代の社会〉

●経済と社会 ②

生産・消費活動全般と金融の関係を通して経済学の基礎を学ぶ

景気が悪いと商品は売れなくなるため、企業は生産を縮小し、雇用機会は減少します。そのため失業者が増え、所得は減り、商品はさらに売れなくなるという悪循環に陥ります。景気を回復するには、どのような道筋をつけられるのかを理解していきます。

●企業と経営 ②

企業と私たちの関わりと経営の仕組みを学ぶ

私たちの生活に深い関わりを持つ企業。生活に必要な財・サービスは企業から購入し、そのために必要なお金を企業で働くことで得ています。社会や経済に大きな影響力をもつ企業が、社会で果たしている役割を理解し、その運営のしくみを学びます。

●政治と生活 ②

日常生活の中で「公共」といかに関わるかを知る

「市民が創る公共」がテーマ。政治は政治や行政の専門家（政治家、自治体職員）だけが行うものではなく、その中心には常に市民の存在があります。「政治には興味がない」あなたのために、「市民が中心の政治」の具体的な事例を紹介しながら楽しい授業運営を工夫したいと思います。

●法律と生活 ②

売買契約を通して身近な法律について学ぶ

日本の法は「法の十字路口」といわれるように、さまざまな法体系が混在しています。なかでも、もっとも身近な「民法」を中心に、法律問題の基礎を学びます。さらに民事訴訟法にも触れ、法律についての見識を深めます。

●現代の人間関係 ②

人間関係や対人行動の背後にある心理を理解する

人々がもつ悩みやストレスの原因の多くは、人間関係にあるといわれており、良い人間関係を形成することで心身の健康を維持することができます。人間関係の諸問題、その背後にある心理などへの理解を深め、社会的適応へのヒントを模索していきます。

●現代社会と福祉 ②

社会福祉と社会保障の概要を知る

社会福祉の基本的な知識を体系的に学習するとともに、社会福祉に対する視点を養うことを目的とします。本講義では、現代社会における生活問題と社会福祉、社会福祉の意義と理念、各分野の福祉政策の概要などについて理解します。

●現代の家族 ②

「家族」から社会を見つめる

私たちを取り巻く社会・経済環境が大きく変わりつつある現在、さまざまな局面で、家族の変化、家族をめぐる新たな問題が見られます。本講義では、家族の歴史を振り返り、家族というものを再考し、現代の家族の問題を考える契機となることをめざします。

●現代の教育 ②

現代の教育の特色や課題を学生の教育経験から考える

現代の教育の特色や課題を、学生自身が受けてきた教育経験を基礎として考察します。「学んできた教育」はどのような理念・理論で構成されてきたのかを考え、現在改革の波にさらされている学校現場の状況を、時事的問題に即して分析します。

●現代のメディア ②

情報があふれている現代の中で賢く生きる方法を学ぶ

テレビやラジオ、新聞、携帯電話など身の回りにメディアは多数ありますが、最高のメディアは人間の目や耳、口などの五官です。その機能を知り、歴史を考察。また、マスメディアから流れてくるニュースを取り上げ、就職や社会生活に必要な読解力を養います。

●情報と社会 ②

情報技術の発達が社会に与える影響について考える

現代社会において、情報の生産・処理・流通・利用は密接で、私たちは情報を収集し、分析し、効果的に活用する能力が要求されています。情報技術の発達が社会の発展と変化に対してどのような影響を与えているのかを考え、今後の社会変化の方向を展望します。

●環境と社会 ②

「環境の世紀」のライフスタイルを考える

地球規模で起こる環境問題の克服は、人間社会が取り組むべき最優先課題のひとつです。環境問題の実態と背景について学習し、これらの問題を背景にして生まれた新しい環境を概観。環境と調和した「循環」と「共生」の社会を構築してゆく方法を考えます。

●食料問題と日本 ②

「食」を通して現代社会の諸問題を考える

現在の日本の豊かな食生活の背後には、国際的な食料の不均衡、食の安全性、環境・エネルギーなどの問題が存在しています。食料という身近な素材を通して現代日本の抱える問題を考察するとともに、消費者として知っておきたい食に関する知識を学びます。

●国際社会と日本 ②

国際社会と日本のかかわりを国際法の立場から考察する

国際社会と日本のかかわりについて、国際法学の立場からさまざまな問題を考察します。国家を基本単位とする国際社会を規律している国際法の基礎知識などを修得しながら、日本と国際社会のかかわりについて、その歴史や現在の諸問題を検討します。